

金玉山雙林寺もみじ一隅の会

もみじ通信

第2回もみじまつりが開催されました

10月19日、第2回目を迎えるもみじまつりが開催されました。関西はもちろんのこと、名古屋や東京・神奈川からも参加者を迎え、盛況のうちに閉幕しました。ご参加くださった皆様、そして準備にご協力くださった皆様、たいへんありがとうございました。

10月18日(土) 準備と懇親会

総勢10名を超える信徒の皆さんが本堂に集まり、仏器磨きや護摩壇・本堂の清掃など各種の準備を行いました。



夜は市内の「あんじ」で懇親会が行われました。年齢も住んでいる場所も違うさまざまな人同士が一

堂に会して気兼ねなく話のできる、素晴らしいひと時となりました。

10月19日(日) もみじまつり

朝から世話人と参加者数名で、本堂に毛せん

をひく、境内にのぼりを立てるなどの準備を行いました。その間、続々と参加者の皆さんが本堂に集まってきます。

10時からは十一面観音菩薩護摩供が厳修されました。法螺貝の音が境内に響き渡ります。今回は、ご祈禱を申し込んだ方々の願意を御住職が読み上げる形で修法が進められました。世のため人のためにご祈禱を申し込まれた人の多かつたことが印象的でした。

お護摩の後、御住職から御法話をいただきました。「観音経には、観音様がさまざまな形に姿を変えて人々を救うと説かれている。もし自分が誰かから嫌な思いをさせられても、実はその相手は自分を導こうとする観音様の化身かもしれないと思えば腹を立てることもない。仏教を生活に活かすとは、例えばそういうことだ」というお話でした。

お昼は、お大黒様をはじめとする女性陣の作ったおにぎりです。また、近くの韓国料理店のおかみさんがおいしい料理を持ってきてくださいました。お昼を用意してくださった皆様、ありがと

雙林寺もみじまつり

10時	十一面観音護摩
11時	もみじ一隅の会総会 (2ページに記事あり)
13時30分	慶讃法要 (百味供養) (薬師如来供養法、歡喜天浴油供養法による大祈禱会)
15時	仕舞奉納
15時30分	夕座勤行

うございました。

午後からは、百味供養による大法要です。参加者一人一人がご宝前に秋の味覚をかたどった



お菓子をお供えし、お薬師様と聖天様それぞれにご祈禱を行うという大法要となりました。



お能)の奉納がありました。

夕座勤行では御住職に導師をお勤めいただき、参加者全

員で般若心経やご真言をお唱えして、もみじまつりは無事終了しました。

その後、小寺会長・高橋さん・岸田さんのお三方による仕舞(正式な衣装を着けずに舞う略式の



もみじ一隅の会の第1回総会が開催されました

もみじ一隅の会は10月で発足1周年を迎えました。それに伴い第1回総会を開催し、この一年の予算・活動について説明と質疑応答を行いました。詳細は、別紙の議事録をご参照ください。

今後とも会の活動へのご支援ならびに積極的なご参加をお願いいたします。

会員の皆さまへ

会長 小寺 利文

平素はもみじ一隅の会へのご支援、誠に有り難う御座います。お陰様を持ちまして、この度、第1回もみじ一隅の会総会を無事、終了致しました。ご出席下さいました皆さまには、ご多忙の折、誠に有り難う御座いました。御欠席の皆さまには、滞りなく総会が終了致しました事をご報告申し上げます。誠に有り難う御座いました。世話人一同、心より御礼申し上げます。詳細に就きましては、別紙総会議事録にてご確認下さいます様、お願い申し上げます。

思えば、この仕事を勤めさせて頂いて、はや約1年。元より、このような大役を務めさせて頂く事は初めてで、何もかもが手探り、試行錯誤の毎日でしたが、御住職の温かく、時には厳しいご指導、奥様の心温まるお心遣い、そして何よりも会員の皆さま方からの叱咤激励を頂き、何とか1年を勤めさせて頂く事が出来ました。本当に有り難う御座いました。まだまだ未熟では御座いますが、今年度も世話人一丸となって、雙林寺を盛り立てていきたいと存じます。今後とも変わらぬご支援、ご指導を何卒宜しくお願い申し上げます。

信徒紹介

雙林寺への道のり

石本 政人

皆さん、こんにちは。世話を勤めさせていただいている石本です。東京在住なので、皆様にお会いできる機会は多くはありません。主に会報の編集など、パソコンでできる仕事を担当しています。

なぜ東京に住む私が雙林寺にご縁をいただくようになったのか、簡単に紹介させていただきます。

お不動様との出会い

私が仏教に出会ったのは、小学生のときでした。町内の山の上にある不動堂にお参りし、私の遠視がよくなるようにとお祈りしたことを覚えています。

その後特別にお寺に参拝することはなかったものの、同年代の仲間たちよりも神社仏閣に対する興味は強かったように思います。

慈覚大師との出会い

私は学生時代を仙台市で過ごしました。近くの松島には瑞巖寺が、山形方面には立石寺(山寺)があります。友人が訪ねてきたときに何度か遊びに行ったものでした。

お寺の縁起には、どちらも円仁(慈覚大師)という平安時代の高僧が開基である書かれています。たまたま訪れた2つのお寺が同一人物により開かれているということに、何か不思議なものを感じました。実は、東国の古刹は円仁が開基とされることが多いので、まったく不思議なことではないのですが。

お不動様との再会

社会人になり、私は神奈川県に住むようになりました。最寄り駅には目黒線という電車が通っています。目黒線には不動前という駅があり、路線図を見る度に気になっていました。どうやら近くに目黒不動尊という有名な寺院があるようです。

ある日曜のこと、暇を持て余した私は目黒不動尊に出かけてみることにしました。境内は広く、至るところに大小のお堂が建てられています。そして、このお寺の開基もまた慈覚大師・円仁なのでした。

お参りを終えて境内に佇んでいると、辺りの人たちが次々と石段を上って本堂に入っていきます。何かあるのだろうかと思っていると、本堂の中に大勢の人たちが座っているのが見えました。そして数人のお坊さんが入場し、壮麗な護摩が始まったのでした。太鼓でリズムをとりながら、知らないお経が読み進められます。しばらく見とれていました。それが観音経で

あることは後から知りました。

目黒不動尊に通う

次の週から、目黒不動尊の護摩に通うようになりました。数珠や勤行儀も入手し、観音経も唱えられるようになりました。週末の一時をお寺で過ごすというのは、実にいいものです。

しかし、次第に護摩に随喜するだけでは物足りなくなってきました。例えば一般参拝者用の勤行儀を用意するなど、お寺のために何か手伝いがしたくなってきたのです。とはいえ、大きなお寺というのは、なかなかお坊さんと話す機会がありません。

雙林寺に巡り合う

そんな折、仏教について調べていて雙林寺のホームページにたどり着きました。当時続けられていたブログから御住職のお人柄が伝わってきました。「葬式仏教」的な話題はなく、日常生活に即した法話が書かれています。

京都旅行のときにお参りしてみると、他のお寺とはずいぶんと様子が違いました。まず、京都東山の中心という絶好のロケーションなのに拝観料がありません。護摩に随喜する参拝者は、御住職よりも大きな声で読経するように言われます(他のお寺では、参拝者は遠慮がちにしか声を出さないことが多いですね)。更には法楽太鼓まで、信者が叩いていいのです。

雙林寺の勤行儀も半年以上かけて手作りさせていただきました。私は時間をかけてじっくりと仕上げる仕事が好きなので、とても楽しい経験となりました。

もみじ一隅の会の世話人になる

私にとって雙林寺は、読経・法楽太鼓・勤行儀作りなど、多くのことを体験させてくださるお寺です。もともと何かお寺の手伝いをしたいと考えていたので、会の発足に際して喜んで世話人に加わらせていただきました。まさに願ったり叶ったりです。

インターネットは実に便利なものですね。東京にいても、京都のお寺の仕事が手伝えるのですから。会の仕事を通して、1200年に及ぶ雙林寺の歴史にささやかながら貢献できることを光榮に思っています。

皆様にまたお会いできる日を楽しみにしています。皆で力を合わせ、雙林寺を盛りたてていきましょう！



雙林寺ニュース

毎月の家内安全・身体健康祈願

雙林寺では、月に2回、もみじ一隅の会の会員の皆様の家内安全・身体健康をご祈願しています。右の写真は、9月1日の十一面観音護摩、9月8日の薬師護摩で実際に使われた護摩木です。護摩木の一本一本に世話人が会員各位のお名前、ご住所と数え年を書き込んで、毎月お寺に奉納しています。

月例のお護摩のうち、1日（お聖天様の縁日）には家内安全を、8日（お薬師様の縁日）には身体健康をご祈願いただきます。参拝できない日でも、朝10時のお護摩の時間になったら心の中で手を合わせてみてはいかがでしょうか。



秋のお彼岸—会員各位の先祖供養—

古来より日本では、お彼岸に先祖を敬い、墓参りをする風習があります。真西に沈む太陽を拝し、西方にあるといわれている極楽浄土に思いを馳せたのが、始まりといわれています。

会員の皆様におかれましても、このお彼岸にご先祖を敬い偲ばれた事と思います。雙林寺におきましても、おはぎをお供えし、御住職により会員各位のご先祖様に回向のお祈りをお捧げいただきました。

次の供養は、来年3月の春のお彼岸に執り行われます。

地蔵堂の屋根の修復が完了

雙林寺境内地の地蔵堂の屋根瓦が老朽化していたため、急遽、修理工事が行われました。御仏様のご加護を頂き、無事に工事を終える事ができました。檀家様より寄進されたりそうそく立ても新調されました。皆様からの御浄財、有難うございました。

毎月24日はお地蔵様のご縁日です。朝10時から地蔵堂にて勤行がありますので、ご都合のつく方は数珠を持参の上、ご参集ください。雙林寺ホームページにもご案内があります。



西行堂の工事着工

雙林寺開基1200年の記念事業として、西行堂の修復工事が着工されました。費用の一部は、信徒・会員の皆様からのご寄進と京都市からの補助金によって賄われています。ご寄進くださった皆様、ありがとうございました。

壁の乾き具合によって多少前後するものの、工期は概ね3か月から5か月です。ぜひ、改めてきれいになった西行堂をご見学ください。



今後の活動予定

年末恒例！仏器磨きの会

今年も年末恒例の仏器磨きの会を行います。当日は本年最後のお護摩となります。仏器をきれいに磨き、気持ちよく新年を迎えましょう。

ご参加いただける方は、軍手をご持参の上、汚れてもいい服装で雙林寺本堂にご参集ください。参加申込は不要です。使い古しの布(ネルのような柔らかいもの)をご寄附いただければ幸いです。

なお、当日夕方から京都市内で忘年会を催します。ふるってご参加ください。

日時	12月21日(日) 午後1時～
場所	雙林寺本堂
参加費	無料
持物	軍手
申込	不要

忘年会のお知らせ

12月21日の仏磨きの会の後、市内で忘年会を開催します。

ご参加いただける方は、雙林寺のホームページからお申し込みください。

会場・開始時刻などの詳細は、参加者の方に別途お知らせします。

ご寄進のお願い

雙林寺では、各種奉納を募っています。西行堂の修復工事のための御寄進も募集中です。

御寄進いただける方は、冥加料を郵便振替でお寄せください。お寺にご持参くださっても結構です。

雙林寺ホームページからもお申し込みいただけます。

<http://www.sourinji.com/modules/tinyd1/index.php?id=9>

のぼり奉納

薬師如来 3,500円 地藏菩薩 4,000円
 歓喜天 3,500円 (いずれもボール付き)

西行堂修復 随意

口座記号番号 00980-2-298836

加入者名 雙林寺

※通信欄に、ご寄進の内容(のぼり/西行堂修復)と生年月日と願意をお書きください。

新入会員のご紹介

もみじ一隅の会の活動も2年目に入り、新たに3名の方が入会されました。

山路千鶴子さん、木谷裕子さん、松本和也さんのお三方です。山路さん、木谷さんはそれぞれ2名のご家族を家族会員としてご登録くださいました。皆さま、これからよろしくお願ひいたします。

来年のカレンダー等の発送について

年明けに新年のカレンダーと暦、御札を発送します。御札は、御住職が新春薬師如来祈願護摩供でご祈祷くださるものです(お護摩の浄火で少し焦げているかもしれませんが)。古い御札をお持ちの方は、雙林寺またはお近くの寺社にお納めください。

法話「写経について」

住職 野竿 智敬

毎回法話ということで書いておりますが、今回は写経の手引きを書いてみます。

さて、お経には3つの功德があるとされています。読むこと(誦経)持つこと(持経)そして、写すこと(写経)です。読んでも、持つても、写しても功德があるわけです。しかし、読んだからといって、持っているからといって、すぐに何か御利益があるかというところでもありません。100巻書いたから金持ちになり、1000巻書いたら病気が治る、なんてことはないのです。

では、写経をすることには意味がないのか？なんて声が聞こえてきそうですが、自動販売機のように、100円賽銭をいれれば、それなりの御利益が与えられるものではないのです。写経をしたり、仏さまの前で手を合わせたりすると、心が落

ち着く、気持ちが静まる、というそのことこそが大切なことです。そして、冷静になったときに、「しっかりと考える」そういう心の火を沈めることこそが、功德であり、しっかりと考えた結果ひらめいたことが御利益なのです。

それでは、写経をしてみましょう。

<準備>

1. 用具…墨、硯、筆、手本、半紙(簡易的にする場合は、筆ペン、サインペンなどでも可)
2. 部屋や机の上を片付ける。できれば仏壇のある部屋で行い、線香、ろうそくを供えます。仏壇が無い場合は、線香をたてるようにします。
3. 手を洗い、口をすすぎ、着衣を整え、あれば塗香をし、心身を清浄にします。

<写経>

1. 正座して、合掌し、深呼吸をして、しばらく黙祷する。
2. **開経偈**を静かに唱える

むじょうじんじんみみょう ほう ひやくせんまんごう あ あ ことかた
無上甚深微妙の法は 百千万劫にも遭い遇う事難し
わ いまけんもん じゅじ え
我れ今見聞し 受持することを得たり
ねが にょらい しんじつぎ げ
願わくば如来の真実義を解したてまつらん

3. **写経観念文**を静かに唱える

みず こ だいひじにん ちすい すみ またりょうごんぜんじょう せきぼく じょうぼく えすいわごう じっそうほうしん もんじ しょしゃ
水は是れ大悲慈潤の智水。墨は又楞嚴禪定の石墨。定墨と慧水和合して実相法心の文字を書写
こ もんじ さん ぜしよぶつ じんじん ひぞうさんじんにょらいしんじつ しょうたい ぜんじょうち え ほうもん じぎょう けた
す。此の文字は三世諸仏、甚深の秘蔵三身如来真実の正体にして、禪定智慧の法門、自行化他
くどく ことごと みなぐそく こ もつ このきょう もんじ じっかいしきしん げん るい したが せっぽうりしょう
の功德、悉く皆具足す。是れを以て此経の文字は、十界色身を現じ、類に随って説法利生す。
このゆえ われいま こ きょう しゃきょう たてまつ こ くどくぜんこん よ でし ほうかい しゅじょう むし このかた
是故に我今、此の経を写経し 奉る。此の功德善根に依って弟子と法界の衆生と、無始より已来、
さんごうろっこん つく ところ いっさい ざいしろう みなことごと しょうめつ りんじゅうしやうねん ごくらく おうじょう けんぶつ もんぼう
三業六根に作る所の、一切の罪障、皆 悉く消滅し、臨終正念にして、極楽に往生し、見仏聞法し
むしやうにん しょう
て、無生忍を証せんことを。

4. 写経を始める。(初めは手本の上に半紙を重ねて写す)
文字の上達を目的にしません。無心に写すことが大切です。
5. 願文を書く。
「為家内安全」などのように、「為」の文字を最初に書きます。4文字でなくとも、「病気が治りますように」などと書いてもよい。
6. 写経をした年月日、住所、氏名を最後に書きます。
7. **回向文**を静かに唱えて終了します。

ねが こ くどく もつ あまね いっさい およ われら しゅじょう みなとも ぶつどう じょう
願わくば此の功德を以て 普く一切に及ぼし 我等と衆生と 皆共に仏道を成ぜんことを

出来上がった写経は、そのまま大切に持っていてよいですし、お寺に奉納してもよいです。大切なのは真心です。所作、形式にとらわれすぎて、心をなくさないようにしましょう。

編集後記

お陰様で、もみじ一隅の会の活動は2年目に入りました。遠方の会員様にも雙林寺の様子をお分かりいただけるよう、お寺の行事や普段の会の活動について4ページにまとめました。また、今回は御法話として写経に関するお話を頂戴しました。新年の暦や御札と一緒に写経用紙をお送りしますので、関心のある方はぜひ取り組んでみてください。遠方の皆様にとっては、雙林寺に参拝せずとも会の活動に参加できる貴重な機会です(石本)。

